



MEDIA RELEASE ・ COMMUNIQUE AUX MEDIA ・ MEDIENMITTEILUNG

2005年4月26日

報道関係各位

ノバルティス(スイス)が発表しましたリリースの日本語訳(抜粋)をご参考までにお届けします。

ノバルティス2005年第1四半期業績発表： 引き続き市場の伸びを上回る力強い売上高・利益の成長を達成

2005年4月21日、バーゼル発

主要数値

2005年第1四半期(2005年1~3月の3カ月間)

	2005年第1四半期			2004年第1四半期		前年同期比(%)	
	百万米ドル	億円	売上高 比(%)	百万米ドル	売上高 比(%)	米ドル ベース	現地通貨 ベース
売上高	7,341	7,634		6,639		11	7
医薬品	4,789	4,980		4,310		11	8
サンド(ジェネリック事業)	803	835		719		12	7
コンシューマーヘルス	1,749	1,818		1,610		9	6
営業利益	1,680	1,747	22.9	1,454 ⁽¹⁾	21.9	16	
当期純利益	1,477	1,536	20.1	1,270 ⁽¹⁾	19.1	16	
1株当たり当期純利益 (ADSベース)	米ドル	円		米ドル			
	0.63	65.52		0.54 ⁽¹⁾		17	

(1) 2005年の会計基準ベース

- 医薬品およびサンド(ジェネリック事業)が力強い増収を示し、ノバルティスグループの売上高は、前年同期比11%増(現地通貨ベース7%増)に
- 厳しい事業環境下、オンコロジーならびに循環器の製品群好調により、医薬品の売上高は前年同期比11%増(現地通貨ベース8%増)を達成
- サンド(ジェネリック事業)の売上高は、ヨーロッパでの業績好調により前年同期比12%増(現地通貨ベース7%増)を達成。ヘキサル、イオン・ラブズの統合は計画通り進行中
- コンシューマーヘルスの売上高は、主力ブランドへの注力と新製品上市が売上拡大を支えた結果、前年同期比9%増(現地通貨ベース6%増)に
- 営業利益は前年同期比16%拡大
- 当期純利益は前年同期比16%増加。1株あたり当期純利益(EPS)は17%増加し、0.63米ドルに

(1)この四半期業績報告は、2005年1月1日に適用された新国際財務報告基準(IFRS)を初めて採用しており、報告上のその他変更も行われています。2004年の数値は、2004年にすでに会計基準の変更が行われていたとみなし変更した数値で示しています。

- 特に記載のない場合、前年同期比の増減率は米ドルベースであり、説明は2005年第1四半期の業績に関するものです。
- 日本円は、便宜上1米ドル=104円(2005年第1四半期のおよその期中平均レート)で換算しています。

ノバルティスの会長兼最高経営責任者ダニエル・バセラ (Dr. Daniel Vasella) は、2005年第1四半期の業績について次のようにコメントしています。「2005年もよいスタートを切りました。医薬品事業は、特にオンコロジー製品群の好業績に牽引され、さらに市場シェアを伸ばしました。ヘキサルとイオン・ラブズを統合し、サンドを世界最大のジェネリック企業にするという計画は予定通り進んでいます。これにより私たちは、高齢社会と医療ニーズの増加という環境下において、幅広いヘルスケア製品群により顧客ニーズを充足する能力をさらに高めることができます。2005年は、過去最高の売上高と比較可能ベースによる過去最高の利益により、競争力ある業績を達成できると予測しています」

売上高

グループの売上高は11%増の73億米ドルに

売上高は、市場シェアをさらに上昇させた医薬品事業ならびに堅調な業績を示したサンド (ジェネリック事業) に牽引され、11%増 (現地通貨ベース7%増) と二桁成長を実現し、73億米ドルとなりました。グループ売上高の伸びのうち、販売量増加によるものが7ポイント、為替による影響は4ポイント、買収による影響は1ポイントありました。一方、正味価格低下は、1ポイントのマイナス要因となりました。グループ売上高に占める構成比は、医薬品65%、サンド11%、コンシューマー・ヘルス24%となりました。地理的分布では、米国38%、欧州39%、その他地域23%の構成となっています。

IMSヘルスによると、ノバルティスは、世界のヘルスケア市場でのシェアを前年同期の4.4%からさらに伸ばし、2005年1～2月の2カ月間のシェアは4.5%となりました。

医薬品の売上高は11%増加し、48億米ドルに

医薬品の売上高は、主力ブランドの「ディオバン」「グリベック」「フェマーラ」「ラミシール」「ゾメタ」に牽引され、前年同期比11%増 (現地通貨ベース8%増) となりました。これは、米国における、卸および小売業者が保有する在庫分の前年のリベートの計上方法変更に伴う6,200万米ドルの一次的調整額を差し引いた後の数値です。この一次的な要因を除けば、売上高の増加率は13% (現地通貨ベース10%) でした。

プライマリーケア領域ならびにスペシャリティ領域、なかでもオンコロジーと循環器の製品群が医薬品事業の力強い業績に貢献しました。売上高の伸びは主に販売量増加によってもたらされ、8ポイントの貢献がありました。また、為替影響は3ポイントのプラス要因となりました。プライマリーケア領域 (マチュア製品を除く) は、13% (現地通貨ベース10%) の売上増を記録。そのうち循環器の製品群は、競争激化の中、前年同期比12%増 (現地通貨ベース9%増) となりました。オンコロジー、移植・免疫、眼科により構成されるスペシャリティ領域の売上高は、20%増 (現地通貨ベース16%増) となりました。なかでもオンコロジーは、「グリベック」「ゾメタ」「フェマーラ」などの優れた抗がん剤の好調に支えられ、26%増 (現地通貨ベース22%増) とダイナミックな伸びを示しました。

第1四半期の米国売上高は、会計方法の変更を反映させた数値で5%伸長し、18億米ドルとなりました。会計方法の変更がなければ、9%の増加でした。欧州の売上高は前年同期比15%増 (現地通貨ベース9%増) となり、日本では19%増 (現地通貨ベース16%増)、中南米では12%増 (現地通貨ベース9%増)、新興成長市場では17%増 (現地通貨ベース11%増) となりました。

サンドの売上高は12%増加し、8億300万米ドルに

第1四半期の売上高は、欧州での力強い売上成長と2004年に買収したDurascanとSabexの貢献により、12%増 (現地通貨ベース7%増) の8億300万米ドルとなりました。米国のジェネリック事業は厳しい競争環境が続きましたが、販売量が大きく増加した抗菌剤が堅調な伸びを示しました。販売量増加により8ポイント、為替および買収はそれぞれ5ポイント売上増に貢

献しました。一方、継続する価格低下の圧力は、6ポイントのマイナス影響を与えました。

コンシューマーヘルスの売上高は9%増加し、17億米ドルに

医療用栄養食品とアニマルヘルスの力強い二桁成長と、チバビジョン、OTC、乳幼児用栄養食品の堅調な業績により、売上高は前年同期比9%増（現地通貨ベース6%増）の17億米ドルとなりました。医療用栄養食品はミード・ジョンソン社の買収による貢献が引き続きあり、アニマルヘルスは米国ならびに欧州の主要市場で投入した新製品の好業績に牽引されました。チバビジョンは、高酸素透過性コンタクトレンズ「O₂オプティクス」の米国発売、「フォーカス・デイリーズ」の継続的な成功により増収となりました。OTCの売上高は、風邪薬の好調が欧州での禁煙補助剤市場の縮小に一部相殺されました。乳幼児用栄養食品は、画期的な製品戦略により米国で好業績を継続しました。コンシューマーヘルス全体では、販売量の増加が5ポイント、為替による影響が3ポイント、買収による影響が1ポイント、それぞれ売上成長に寄与しました。価格変動の影響は、ほとんどありませんでした。

営業利益

2005年第1四半期（2005年1～3月の3カ月間）

	2005年第1四半期			2004年第1四半期 ⁽¹⁾		前年同期 比(%)
	百万米ドル	億円	売上高比(%)	百万米ドル	売上高比(%)	
医薬品	1,364	1,418	28.5	1,251	29.0	9
サンド	110	114	13.7	91	12.7	21
コンシューマーヘルス	286	297	16.4	265	16.5	8
法人収益/費用（純額）	-80	-83		-153		
営業利益 計	1,680	1,747	22.9	1,454	21.9	16

(1)2005年の会計基準ベース

グループの営業利益は前年同期比16%増の17億米ドルに

すべての事業領域で好業績を収めた結果、営業利益は売上高よりも高い成長率を示し、売上高営業利益率は1ポイント改善しました。高血圧症治療薬「チバセン」の欧州での譲渡に伴う収益1億3,500万米ドルも営業利益の増加に貢献しました。米国での過去のリベート計上方法の変更ならびに「チバセン」譲渡による収益を除くと、営業利益は前年同期比11%増となり、売上高の伸長率と同水準となります。

医薬品の営業利益は9%増の14億米ドルに

第1四半期の営業利益は、9%増の14億米ドルとなりました。売上原価率は、主に米ドル安の影響により0.7ポイント上昇し、17.1%となりました。販売・マーケティング費は、特にEnablex（尿失禁）、「フェマーラ」（延長アジュバント療法）、Aclasta（パジェット病）などの発売前・発売後の投資により14%増加しましたが、その一部は生産性向上により相殺されました。研究開発費は、LAF237（糖尿病）、SPP100（高血圧症）などの後期臨床試験の立ち上げ、ノバルティス・バイオメディカル研究所への投資、ロンドンの研究施設閉鎖に伴う引当金計上により、前年同期比16%増と売上高よりも高い増加率を示し、売上高に占める割合は18.9%となりました。その他収益/費用は、主に「チバセン」の譲渡益の影響により45%減少しました。一般管理費は、売上高よりも低い伸びを示し、売上高に占める割合は3.2%となりました。

サンドの営業利益は21%増加し、1億1,000万米ドルに

営業利益は前年同期比21%増の1億1,000万米ドルと、顕著な伸びを示しました。力強い事業拡大が主要な要因であり、コスト抑制による販売・マーケティング費の対売上高比率の低下がさらに下支えしました。第1四半期のその他収益/費用は、東欧での販売代理店事業の売却に伴う一時的収益による貢献がありましたが、一般管理費は訴訟に伴う費用によりマイナスの影響を受けました。これらの要因は、製品構成（プロダクト・ミックス）の変化に伴う売上

原価の上昇、一部の市場における継続する価格低下の圧力、特にバイオ医薬品開発による研究開発費の高騰を上回りました。

コンシューマーヘルスの営業利益は8%増加し、2億8,600万米ドルに

営業利益は8%増加し、売上高の増加率と同レベルでした。売上原価、研究開発費、一般管理費の対売上高比率は、いずれも前年同期と近いレベルでした。一方、販売・マーケティング費は、チバビジョンの「O₂オプティクス」などの新製品発売に伴い上昇しました。

グループの当期純利益は16%増の15億米ドルに

好業績に支えられ、第1四半期の当期純利益は、前年同期の13億米ドル（2005年の会計基準ベース）から16%増加し、15億米ドルとなりました。売上高に対する比率は、前年同期の19.1%から20.1%に上昇しました。

グループの今後の見通し（不測の事態を除外）

ノバルティスは、2005年の業績見通しを変更しません。さらに市場シェアを拡大し、最も高い成長を遂げる医薬品企業の一つであり続けると予測しています。その結果、グループ全体および医薬品事業で一桁台後半（現地通貨ベース）の売上成長を達成すると予想しています。

不測の事態がなければ、ノバルティスグループの営業利益および当期純利益は、比較可能ベースで過去最高を更新する見込みです。

医薬品事業ならびに主要製品のハイライト

プライマリーケア

世界No.1のアンジオテンシン受容体ブロッカー（ARB）である「ディオバン」（前年同期比17%増、現地通貨ベース14%増、米国10%増）は、米国で38%の市場シェアを維持しました。競争激化にもかかわらず、「ディオバン」は、ブランド薬で最も売上を伸ばした高血圧症治療薬の一つであり続けました（2005年3月現在のIMSヘルスのデータによる）。米国の20万人以上の患者さんが、これまでにノバルティスが支援する「米国高血圧症認知・教育プログラム」に参加しており、売上拡大に貢献しています。ノバルティスは、すでにイギリス、スウェーデン、スイスなど世界37カ国で承認されている心筋梗塞後ハイリスク患者治療の適応に関し、米国食品医薬品局（FDA）と2005年初めに出された承認勧告通知についての協議を続けています。欧州での売上高は、フランス、イタリア、ドイツにおける「コディオバン」（配合剤）の好調により、大きく伸長しました。

2005年3月、ノバルティスは、ジェネリック企業から「ディオバン」の有効成分であるバルサルタンの後発品販売を求める簡易承認申請（ANDA）をFDAに行ったとの通知を受け取りました。“505(j)申請”と呼ばれるこのANDAで、この企業は後発品が2017年に失効する「ディオバン」の製剤特許を侵害しないという「IV条証明」を提出しました。しかしながら、このANDAには2012年に特許保護が失効するバルサルタンの化合物特許を侵害しないということの証明（いわゆるIII条証明）が含まれていませんでした。そのため、このジェネリック企業は少なくとも2012年までは後発品を販売することはできません。ノバルティスは本件に関し、現段階ではこの企業を提訴しないことに決めました。今後も継続して「ディオバン」関連の知的財産権を精力的に防御していきます。

米国でNo.1の高血圧症治療の配合剤「ロトレル」（米国で4%増）は、米国患者の60%以上が血圧をコントロールするために2剤あるいはそれ以上の治療薬を必要とするというデータに支えられ、第1四半期に市場シェアを拡大しました。しかしながら、在庫の買戻しによるマイナス影響により、売上高は伸び悩みました。「ロトレル」は、2002年以来続いている配合剤No.1ブランドとしての地位を維持しました。米国における「高血圧症認知・教育プログ

ラム」は、この製品の売上拡大にも貢献しました。

爪白癬治療の世界トップブランド「ラミシール」(13%増、現地通貨ベース11%増、米国9%増)は、米国での疾患認知度の向上ならびに欧州(特にイギリス、フランス、ベルギー、オランダ)での力強い二桁成長により、好業績を維持しました。

アトピー性皮膚炎のリーディング薬「エリデル」(34%増、現地通貨ベース32%増、米国30%増)は、第1四半期に売上高を拡大しました。2月に行われたFDA諮問委員会において、「エリデル」とプロトピック®の理論上の発がんリスクに関し“ブラック・ボックス”の警告文を付けるべきと推奨されたことを受け、ノバルティスは現在、FDAと添付文書の記載変更について協議中です。ノバルティスおよび独立した専門家は、このような警告文を付けることが正当であるとは認めていません。ノバルティスは、承認された適応症の範囲における「エリデル」の安全性と有効性に自信を持っています。

「ゼルノーム/ゼルマック」(18%増、現地通貨ベース16%増、米国17%増)は、便秘型過敏性腸症候群(IBS)の画期的治療薬であり、慢性特発性便秘を治療する初めてかつ唯一の医療用医薬品です。2005年第1四半期は、堅調な二桁成長を実現しました。「ゼルノーム」は、米国のIBS市場で60%のシェアに達しました。「ゼルノーム」は、2,000万人以上の患者さんを悩ます慢性便秘治療の米国で唯一のブランド薬です。2005年、ノバルティスは慢性便秘治療における「ゼルノーム」の有効性についての認知向上を図る一連のプログラムを展開します。

スペシャリティー領域

オンコロジー

フィラデルフィア染色体陽性(Ph+)の慢性骨髄性白血病(CML)のあらゆる病期と消化管間質腫瘍(GIST)の治療薬「グリベック」(41%増、現地通貨ベース36%増、米国55%増)は、米国ならびに欧州主要国で堅調な業績を達成した結果、二桁の力強い成長を示しました。成長の要因として、診断技術の進歩や啓発プログラムが一部寄与し、CMLとGISTの両市場でさらなる浸透を遂げたことと、平均一日用量の増加が挙げられます。「グリベック」は100以上の臨床開発試験が進行中であり、その中にはヒドロキシウレアとの併用による脳の腫瘍の一種であるグリオブラストーマを対象としたフェーズ 試験、米国国立がん研究所(NCI)の実施によるGISTの補助療法を対象としたフェーズ 試験が含まれます。FDAは長期投与と分子生物学的効果のデータを含む「グリベック」のCMLの添付文書改訂を承認しました。グリベック国際患者支援プログラムは、現在世界74カ国で展開されており、このプログラムがなければ治療薬を手にするできない10,800人の患者さんに「グリベック」を提供しています。

悪性腫瘍の骨転移治療に最も多く使われているビスホスホネート注射剤の「ゾメタ」(17%増、現地通貨ベース15%増、米国13%増)は、2004年にブロックバスター(年間売上高10億米ドル以上の製品)の仲間入りを果たし、2005年第1四半期も二桁成長を継続しました。2005年の成長率は、乳がんや多発性骨髄腫の治療においてすでに高い浸透率を示していること、米国におけるメディケア償還方針の変更や競争激化といった要因により、やや鈍化する見込みです。同時に、世界的に最も多いがんとされている前立腺がんと肺がんの患者さんの治療への、これまで以上のビスホスホネート注射剤の使用において進展を見せています。

閉経後の早期乳がんおよび進行性乳がん治療の第一選択薬「フェマーラ」(51%増、現地通貨ベース47%増、米国85%増)は、閉経後の早期および進行乳がんの第一選択薬としての位置づけを裏付ける臨床試験データに支えられ、二桁台後半の高い成長率を継続しました。1月に発表されたBIG 1-98試験の最初のデータでは、「フェマーラ」は早期乳がんの術後アジュバント療法における無病生存率がタモキシフェンを上回りました。BIG 1-98試験の結果は、

5月に開催される米国臨床腫瘍学会で発表される予定であり、この試験結果に基づき2005年第2四半期に米国およびEUでこの適応での承認申請が行われる見込みです。2005年第1四半期において「フェマーラ」は、タモキシフェンによる標準アジュバント療法終了後の閉経後早期乳がん患者に対する唯一のホルモン療法として、ドイツ、フランスおよびその他7つの国で承認されました。この適応症は、すでに米国を含む世界75カ国で承認されています。これは、5年間のタモキシフェンによる術後アジュバント療法後の患者さんの再発リスクを有意に減少させることを証明した、画期的なMA-17試験の結果に基づくものです。

ホルモンの過剰な分泌により起こる先端巨大症ならびに消化管ホルモン産生腫瘍のリーディング医薬品「**サンドスタチン**」（11%増、現地通貨ベース7%増、米国7%増）は、長時間効果が持続し、患者さんの利便性の高いLAR製剤（サンドスタチンの全世界売上高の約70%を占める）が二桁成長を示した結果、近年レベルの成長率を維持しました。「サンドスタチン」の皮下注射タイプの後発品が3月に米国で販売承認を取得しました。LAR製剤は月に1度の注射で済むため、1カ月に平均90回も注射する必要のある後発品に対し、快適さ、利便性の面から患者さんに対する格段の優位性を確立しています。

眼科

2005年初めに米国で競合品が発売されたものの、失明の主要な原因である滲出型加齢黄斑変性（AMD）の治療薬「**ピスダイン**」（23%増、現地通貨ベース19%増、米国13%増）が米国ならびに欧州で好業績を継続した結果、眼科事業部の売上高は前年同期比23%増（現地通貨ベース19%増）を記録しました。

移植

米国およびその他市場で後発品による市場侵食が進み、「**ネオーラル/サンディミュン**」の製品群（10%減、現地通貨ベース13%減、米国18%減）が影響を受けた結果、移植事業領域の売上高は、前年同期比6%減（現地通貨ベース9%減）となりました。腎移植に用いられる免疫抑制剤の**Myfortic**は、引き続き世界での市場シェアを拡大しました。同剤は、2005年第1四半期にフランス、カナダ、スペインで発売されました。また、慢性同種移植不全リスクを抑制する細胞増殖シグナル阻害剤「**サーティカン**」は、第1四半期にスペインで発売されるとともに、オーストラリア、南アフリカ、イスラエルで承認勧告が行われ、世界各国で承認の動きが加速しています。

開発品目ならびに承認申請の進捗状況

ノバルティスは、新たな標準治療薬あるいはその領域で初の治療薬となりうるいくつかの開発プロジェクトを含む、魅力的な開発パイプラインを保有しています。また、多くの開発プロジェクトが申請中、あるいは2005年に申請される計画です。

- **Exjade** (deferasirox)は1日1回経口投与の鉄キレート剤であり、2005年第2四半期に米国、EUでオーファン・ドラッグ（希少疾病用医薬品）として申請する予定です。これまでICL670の開発コードで呼ばれていた**Exjade**は、輸血を繰り返すことにより引き起こされ、時に生命を脅かす危険性を持つ鉄過剰症の治療に使用されます。
- 2005年3月、FDAは骨のパジエット病治療に関する**Aclasta**（ゾレドロン酸5 mg輸液製剤）の承認勧告を採択しました。ノバルティスは最終的な承認取得に必要なとされる情報について、今後FDAと緊密に連携・協力していきます。**Aclasta**は、骨粗しょう症およびその他の骨代謝性疾患に対する1年1回投与の治療薬としても開発中です。
- 「**ソレア**」は欧州当局により承認審査中であり、米国ではすでに承認されています。この画期的薬剤は、喘息、特に既存薬で症状が十分にコントロールされていない成人および青年期の重症喘息患者さんに対するユニークなadd-on療法となることが期待されます。「**ソレア**」はジェネンテック社およびタノックス社と共同開発しています。

第2四半期には、下記を含む多くの化合物の新たな臨床試験データが公表される予定です。

- **FTY720**の多発性硬化症の適応に関する6カ月間の試験結果が、ウイーンで開催される欧州神経学会会議において6月21日に初めて発表される予定です。フェーズ試験のデータによると、再発頻度ならびにMRI診断による脳の損傷が有意に減少し、また最初の再発までの期間も延長されていることが示されました。患者さんの大多数は、試験終了後も引き続き本剤による治療を受けています。本適応に関するフェーズ試験は、2005年半ばに開始する予定です。現在実施中の腎移植における急性拒絶抑制に関するFTY720のフェーズ試験は、計画どおり進行しています。
- **PTK/ZK** (vatalanib) の転移性大腸がん適応に関するCONFIRM1試験データは、5月に開催される米国臨床腫瘍学会の最新抄録の中で発表されることが決まりました。3月、ノバルティスとシエーリング社は、CONFIRM1のフェーズ試験の結果に基づき、転移性大腸がんにおけるPTK/ZKの有用性に関するポジティブな結果を公表しました。試験計画に則って治験責任医師により実施された無増悪生存率に関する分析では統計学的有意性が見られた一方、放射線学的観点から評価した主要項目では統計学的有意性が見られませんでした。社外組織であるデータ・モニタリング審議会は、CONFIRM1試験による全般的な生存率改善の分析を継続するよう推奨し、この試験結果は2006年後半に公表される予定です。もう一つのフェーズ試験であるCONFIRM2の中間解析結果は2005年後半に公表予定であり、最終的な全般的な生存率に関する試験データは2006年半ばに発表される予定です。3月に発表のとおり、PTK/ZKは2007年に承認申請予定です。
- minimally classicあるいはoccult型の加齢黄斑変性（AMD）患者における**Lucentis**TM (ranibizumab)のフェーズ MARINA試験の12カ月間のデータは、2005年第2四半期に発表される予定です。ノバルティスと提携先のジェネンテック社は、predominantly classic型のAMD患者におけるもう一つのフェーズ試験（ANCHOR）による12カ月間の結果を2005年第4四半期に公表する予定です。

- **LAF237**（ビルダグリプチン）の単独投与および他の糖尿病治療薬との併用によるフェーズ 試験データは2005年末に公表予定です。また、**SPP100**（アリスキレン）の高血圧症治療に関する追加データは、2005年の第3四半期に公表される見込みです。

ノバルティスでは、70以上のプロジェクトが臨床試験段階にありますが、そのうち40以上は新規化合物です。また、社内での創薬活動をライセンス・インにより補完しており、2005年はこれまでに2つのライセンス契約が合意に至りました。

- **AD 237**はベクチュラ社およびアラキス社と共同開発中の吸入型抗ムスカリン持続性製剤で、現在、慢性閉塞性肺疾患（COPD）を適応としたフェーズ 試験の段階にあります。ノバルティスは、AD 237の単独投与およびQAB149（1日1回投与の持続性刺激薬でフェーズ 試験中）との併用療法の開発を担当します。これまでの試験結果では、同剤の良好な忍容性と単回投与での24時間以上にわたる効果が確認されました。現在、ノバルティスの開発後期パイプラインには、世界の死因の第4位であり、主に喫煙によって引き起こされるCOPD治療のための2つの有望な気管支拡張剤があります。
- 「**レバミピド**」は大塚製薬から導入されたドライアイ治療薬で、現在2つのフェーズ 試験を実施中です。ノバルティスは、日本およびアジア主要国を除く世界における同剤のサブライセンス権利を取得しました。

ヘキサールとイオン・ラブズの統合は、計画通り進行

ドイツ第二のジェネリック企業（株式非公開）のヘキサールと、米国で最も成長しているジェネリック企業の一つでヘキサールと戦略的提携関係にあるイオン・ラブズをサンドに統合し、世界最大のジェネリック企業を誕生させる計画は予定通り進行中です。

ノバルティスは2月にこれら2つの企業の戦略的買収を発表しました。これにより、サンドの全世界での地理的プレゼンスおよび抗菌剤分野での強み、ヘキサールのドイツにおける主導的地位と優れた実績を持つ製品開発力、さらにイオン・ラブズの米国市場における“製品化が難しいジェネリック医薬品”領域での強いプレゼンスという、3社の強みが統合されることとなります。2005年後半に予定されている買収完了後、サンドは2004年売上高の単純合計で51億米ドルとなり、600成分・5,000製剤以上の製品群、20,000人以上の従業員を有する世界最大のジェネリック企業となります。

すでに米国およびEU当局への許可申請が行われており、市場で取引されているイオン・ラブズの株式を取得する公開買付は、当局の審査状況を見ながら実施に移される計画です。一連の手続きは2005年末までに完了する見込みです。

コーポレート

法人収益/費用（純額）

前年同期の1億5,300万米ドルの法人費用に対し、2005年第1四半期の法人費用は8,000万米ドルとなりました。税法上の税金ならびに間接的な税金の見積額が前年同期に増加したことが主な要因です。

金融収益（純額）

金融収益の純額は、前年同期の2,800万米ドルに対し、4,500万米ドルとなりました。増加の主な要因は、為替影響による収入です。低金利環境にもかかわらず、流動資産の純額に対するリターンは、前年同期の1.8%から2.4%に上昇しました。

関連会社からの利益

関連会社からの利益は、3,300万米ドルとなりました。ノバルティス グループが42%の株式を保有するカイロン社への投資は、前年同期の1,100万米ドルの収益から300万米ドルの損失となりました。ロシュ社への投資は、3,500万米ドルの収益となりました。ロシュ社の2005年第1四半期の純利益のうち6,500万米ドルがノバルティス持分と見積もられ、これには2004年業績のプラスの調整額200万米ドルが含まれます。これは、無形資産の償却に伴う3,000万米ドルの支出により相殺されました。

強固なバランスシート

ノバルティスの社債は、引き続きスタンダード&プアーズとムーディーズにより、それぞれ長期債は最高の「AAA」および「Aaa」、短期債については「A1+」および「P1」に格付けされています。ノバルティスは、金融機関を除き、これら2つの格付機関から最上位の格付けを得ている世界でも数少ない企業の一つです。

2005年3月31日現在の固定資産の総額は、前年から18億米ドル減少し295億米ドルとなりました。主な要因は、配当金の支払額21億米ドル、自己株取得による5億米ドル、為替差損の7億米ドルです。これらの支出は、第1四半期の純利益15億米ドルを上回りました。第1四半期末の負債比率は、2004年12月31日現在の0.22:1に対し、0.21:1となりました。

ノバルティスは第1四半期もスイス証券取引所のセカンド・トレーディング・ラインを介した自己株取得プログラムを継続しました。2004年8月の第4次プログラム開始以来、計2,520株を12億米ドルで取得しました。この中には第1四半期に取得した1,000万株、5億米ドルが含まれます。2005年3月1日に開催された年次株主総会において、2004年末までにセカンド・トレーディング・ラインを介したプログラムにより取得した3,800万株を償却することが承認されました。

キャッシュフロー

営業活動からのキャッシュフローは、主に運転資本の純額が5億5,100万米ドル変動したことにより、前年同期から9億1,800万米ドル（88%）増加し、20億米ドルとなりました。これは主に配当金に対する源泉徴収税の支払いタイミングのずれ（2004年は第1四半期に支払われたが、2005年は第2四半期に支払われる予定）により生じました。

免責条項

本リリースには、現時点における将来の予想と期待が含まれています。従って、その内容に関して、また、将来の結果については、不確実な要素や予見できないリスクなどにより、将来の結果が現在の予想と異なる場合があることをご了解下さい。なお、詳細につきましては、ノバルティスが米国証券取引委員会に届けておりますForm 20-Fをご参照下さい。

ノバルティスについて

ノバルティスは、医薬品とコンシューマーヘルスにおける世界的リーダーです。ノバルティスグループ全体の2004年の売上高は282億米ドル（約3兆507億円^注）で、当期純利益は56億米ドル（約6,048億円^注）、研究開発費は42億米ドル（約4,544億円^注）でした。スイス・バーゼル市に本拠を置くノバルティスは、約81,400人の社員を擁しており、世界140カ国以上で製品が販売されています。詳細はインターネットをご覧下さい。

<http://www.novartis.com/>

（注）1米ドル = 108円（2004年のおよその期中平均レート）で換算

今後の報告予定

2005年7月14日	上半期ならびに第2四半期業績発表
2005年10月18日	1～9月期ならびに第3四半期業績発表

本リリースは、英語版オリジナルの日本語訳（抜粋版）です。連結貸借対照表、連結キャッシュフロー計算書、注記などは省略しています。これらの内容は英語版オリジナルをご参照下さい。

http://www.novartis.com/results_2005/q1_results_2005.shtml

連結損益計算書（監査対象外）

2005年第1四半期（2005年1～3月の3カ月間）

	2005年 第1四半期		2004年 第1四半期 ⁽¹⁾	前年同期比		過去報告ベース 2004年第1四半期 ⁽²⁾
	百万米ドル	億円	百万米ドル	百万米ドル	%	百万米ドル
売上高	7,341	7,634	6,639	702	11	6,639
その他収入	73	75	27	46	170	27
売上原価	-1,926	-2,003	-1,689	-237	14	-1,689
うち減価償却ならびに製 品・特許権・商標の減損	-74	-76	-69	-5	7	-69
粗利益	5,488	5,707	4,977	511	10	4,977
販売・マーケティング費	-2,319	-2,411	-2,060	-259	13	-2,060
研究開発費	-1,087	-1,130	-938	-149	16	-938
一般管理費	-401	-417	-355	-46	13	-355
その他収益/費用	-1	-1	-170	169		-185
営業利益	1,680	1,747	1,454	226	16	1,439
関連会社からの利益	33	34	42	-9	-21	14
金融収益（純額）	45	46	28	17	61	28
税引き前利益	1,758	1,828	1,524	234	15	1,481
税金	-281	-292	-254	-27	11	-248
当期純利益	1,477	1,536	1,270	207	16	1,233
帰属別内訳：						
親会社株主	1,481	1,540	1,274	207	16	1,237
少数株主	-4	-4	-4	0		-4
平均発行済み株式数 （百万株）	2,332.1		2,371.1			2,371.1
1株当たり当期純利益		（円）				
（米ドル）⁽³⁾	0.63	65.52	0.54	0.09	17	0.52
希薄化後1株当たり当期 純利益（米ドル） ⁽³⁾	0.63	65.52	0.54	0.09	17	0.52

(1) 2005年の会計基準ベース（2004年の実際報告ベースとの調整については、ノバルティス・ウェブサイトのインベスター・セクションをご参照下さい。<http://www.novartis.com/>）

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース（当時のIFRS基準に従い、2002年11月7日以前に関する営業権の償却、研究開発費の資産化、ストックオプションの費用化の修正を行っていないもの）

(3) 1株当たり当期純利益（EPS）は、親会社株主に帰属する当期純利益を基に計算されています。

事業部門別売上高

2005年第1四半期（2005年1～3月の3カ月間）（監査対象外）

	2005年第1四半期		2004年第1四半期	前年同期比(%)	
	百万米ドル	億円	百万米ドル	米ドルベース	現地通貨ベース
医薬品	4,789	4,980	4,310	11	8
サンド（ジェネリック）	803	835	719	12	7
コンシューマーヘルス	1,749	1,818	1,610	9	6
売上高 計	7,341	7,634	6,639	11	7

事業部門別営業利益

2005第1半期（2005年1～3月の3カ月間）（監査対象外）

	2005年第1四半期			2004年第1四半期 ⁽¹⁾		前年同期比	過去報告ベース 2004年第1四半期 ⁽²⁾
	百万米ドル	億円	売上高比(%)	百万米ドル	売上高比(%)	(%)	百万米ドル
医薬品	1,364	1,418	28.5	1,251	29.0	9	1,246
サンド（ジェネリック）	110	114	13.7	91	12.7	21	85
コンシューマーヘルス	286	297	16.4	265	16.5	8	253
法人収益/費用（純額）	-80	-83		-153			-145
売上高 計	1,680	1,747	22.9	1,454	21.9	16	1,439

(1) 2005年の会計基準ベース（2004年の実際報告ベースとの調整については、ノバルティス・ウェブサイトのインベスター・セクションをご参照下さい。<http://www.novartis.com/>）

(2) IFRS基準適用後の過去報告ベース（当時のIFRS基準に従い、2002年11月7日以前に関する営業権の償却、研究開発費の資産化、ストックオプションの費用化の修正を行っていないもの）

補足資料：2005年第1四半期(2005年1～3月)の売上上位20医薬品の売上高（監査対象外）

製品名	適応症	米国			米国以外			合計			
		百万米ドル	億円	前年同期比	百万米ドル	億円	前年同期比	百万米ドル	億円	前年同期比	
				現地通貨			現地通貨			米ドル	現地通貨
				ベース(%)					ベース(%)	ベース(%)	
ディオバン/コディオバン	高血圧症	358	372	10	487	506	17	845	878	17	14
グリベック	慢性骨髄性白血病	117	121	55	379	394	30	496	515	41	36
ゾメタ	悪性腫瘍による骨合併症	167	173	13	129	134	18	296	307	17	15
ラミシール(グループ)	真菌症	115	119	9	134	139	12	249	258	13	11
ネオラル/サンディミュン	移植	38	39	-18	188	195	-12	226	235	-10	-13
ロトレル	高血圧症	231	240	4				231	240	4	4
サンドスタチン(グループ)	先端巨大症	93	96	7	128	133	8	221	229	11	7
レスコール/ローコール	高コレステロール血症	48	49	-26	124	128	6	172	178	-1	-5
ボルタレン(グループ)	炎症/疼痛	2	2	-14	159	165	7	161	167	10	7
トリレプタール	てんかん	115	119	19	37	38	20	152	158	21	19
トップ10製品 計		1,284	1,335	10	1,765	1,835	13	3,049	3,170	14	12
ビスタイン	加齢黄斑変性	51	53	13	73	75	24	124	128	23	19
フェマーラ	乳がん	54	56	85	64	66	25	118	122	51	47
エクセロン	アルツハイマー病	48	49	-3	69	71	15	117	121	10	7
エリデル	アトピー性皮膚炎	81	84	30	25	26	37	106	110	34	32
テグレートール(CT/XR錠含む)	てんかん	25	26	1	72	74	1	97	100	4	1
フォラジール	ぜんそく	5	5	92	87	90	6	92	95	16	9
ミアカルシック	骨粗しょう症	58	60	14	34	35	-8	92	95	7	5
ゼルノーム/ゼルマック	過敏性腸症候群	68	70	17	12	12	11	80	83	18	16
コムタン(グループ)	パーキンソン病	30	31	23	32	33	58	62	64	41	39
レボネックス/クロザリル	治療抵抗性の統合失調症	14	14	7	47	48	-29	61	63	-22	-25
トップ20製品 計		1,718	1,786	12	2,280	2,371	12	3,998	4,157	15	12
その他製品		166	172	-17	687	714	4	853	887	3	-1
会計方法変更に伴う調整を除いた医薬品売上高		1,884	1,959	9	2,967	3,085	10	4,851	5,045	13	10
前年の米国でのレポート調整額		-62	-64					-62	-64		
医薬品売上高 計		1,822	1,894	5	2,967	3,085	10	4,789	4,980	11	8